

今後の集落活動センターは

しっかりと支援をしていく

が、どう考えているかを問う。



さかもと あや 議員

答 森田総務課長

本事業で活発にお金が回ることは難しいと思う。

あつたかふれあいセンターとも連携しながら高齢者の方々が集い、少しでもそこで働き、小さなお金でも稼げ、それが健康づくりに役立つことが大事だと思う。

町としても無理な目標は立てず、皆さんが家に引きこもるのではなく、ここに来て話もし、ちよつとしたこともや

つていく集いの場になればと考えている。

問

このような補助事業を地域に入れるとき、職員と地域をつながりや、連絡がうまく回っているか、また、声を届けてくれる住民に寄り添いながら仕事をしてほしいと思

問 集落活動センターは、3年間の財政支援があるが、「地域のコミュニティビジネスを創出し経費は賄ってくださーい」というのが大前提だ。しかし、この事業で儲けて皆に配分して、儲けてよかつたというものにはなりにくい。自分たちの身の回りをしっかりと固めをして、一日一日の生活が心地よく暮らしやすく、ちよつとお金は欲しい、という形で集落活動センターが運営されていくことが、私は本町の理想ではないかと思う

う。住民の活躍できる場所を作るには、職員の事業申請、関係機関の認可を取るなど、その間の仕事は絶対役場の仕事で役場がやらなければ進まない。責任を持ち意識をして仕事をしてもらいたい。

また、協力隊や集落支援員が各部署で一生懸命頑張っている。事業を担当する職員が、一番最初に対応するので、地域との関係がうまく取れるよう配慮が必要では。

答 森田総務課長

この事業も、県の地域支援企画員、町の担当職員、また集落支援員が地域住民との信頼関係を築きながら連携を十分取って進めている。若干不

十分なところもあつたかもしれないが、地域に足を運び、地域住民からの願いというものを汲み上げていくということが重要であると考えている。補助事業をいただく前提として県の方でも、将来に渡

って市町村の支援体制が整っているということが条件であり、町としても3年間が終わ



(仮)「集落活動センターかきせ」設立総会の一コマ

つたあとは、地域にすべてお願いする事にはならないと思う。そのことは十分肝に銘じて進めていきたい。集落活動

センターは、現在あつたかふれあいセンターと同様、中間地域での小さな拠点であり、住民の暮らしを守る重要な施設として考えている。今後、4つの活動センターの計画が終わっても、必要があれば検証して計画もしていくこ

とになると思うが、現在はこの4つの所でうまく活動を続けていけるように支援することが重要だと考えている。

地域おこし協力隊、集落支援員の方々は、月1回の定例会を行っている。各センターの内容等、情報交換や悩みも話し合っており、よりよい方向に進めていきたいと考えている。